

# 埼玉企業の経営戦略

急速な円安の進行や金利環境の変化などを背景に、国内外の経済情勢や産業構造が大きく変化している。企業経営を取り巻く環境が不透明さを増す中、埼玉県内の企業は高い技術力を生かし、市場ニーズに応えた新製品開発や設備投資を進め、さらなる成長を目指す。県内の優良企業に、2026年の抱負や経営戦略を聞いた。

**八洲電業社**

社長  
吉村光司氏



# AI実装でDX先行モデルに

「AIを積極的に活用していますね。」

「『業界で一番AIに強い会社』を掲げ、私たちが先頭立って活用法を学び、社内教育を徹底している。今回の顔写真もAIで生成した。自社開発の業務管理システムTHOMAS（トーマ）100周年に向けたこれらへのAI実装を進め、入札分析や購買業務の効率化を図り中小企業におけるDXの先行モデルを目指す」

— 2026年の抱負 —

「3月1日に創業80周年の節目を迎える。次の年の節目に向けたこれらへのAI実装を進め、入札分析や購買業務の効率化を図り中小企業におけるDXの先行モデルを目指す」

からの20年は、過去の延長線上にない「変革と挑戦」の期間になる。地道に堅実な経営を貫きながらも、先人から受け継いだ確かな技術と最新テクノロジーを融合させ、社員一丸となつて「新しい八洲」を次の世代へつないでいく決意だ」

――80周年を前に本社内も改装しました。「社員のマチベーション向上」などを目的に、昨秋から社屋を全面的に刷新した。現場業務が多い社員向けにフリーアドレス制を導入するなど、効率的なレイアウトに変更している。私は「会社は、社員が意欲的に働ける環境を整えることが重要だと判断した」

――電気工事業界の課題をどう見ますか。「業界全体は堅調だが、中小企業に実利が波



創業80周年を機に全面改装した本社屋

▲

ルサイネージュやSNS戦略を本格化させる。インフラを支える仕事の重要性を広く発信

「100周年に向け、技術力で信頼される企業であり続けたい。社員が幸せを感じ、健康で安心して長く勤められる組織であることを最優先に掲げる。派手に事業拡大を支える誇りを持って、全社員がこの会社で働くことに信頼を寄せられる盤石な経営基盤を構築して」

「将来の展望は、PRが不可欠だ」

企 業 デ ー タ

▷所在地=さいたま市北区日進町3の37の1、048・663  
・3361▷資本金=6000万円▷従業員数=49人(グル  
ープ63人)▷設立=1946年(昭21)3月▷URL=ht  
p://www.yashima-dengyosha.co.jp/

# 日本シーム

社長  
木口達也氏



国内の循環型社会到達後押し

— 昨年はクロード・ルーブ・エコノミー（CIE、完全循環経済）の周知と欧州の最新動向の紹介する初めてのフォーラムを開催しました。

十一月に浜松市で開いた国際フォーラムは満席となり、動脈・静脈産業の垣根を越えた交流が生

— SDGs事業部の発足から1年、手応えと具

— 知見などを発信し続けた。法律、テクノロジー、その三つをそろえて、教育を通じて人々の意識変革にも引き続き注力していく。

— 開催し、欧州の最先端な

— 足から1年、手応えと具

— 足から1年、手応えと具

体的な成果は「SDGsは会社の看板を磨くイメージで取り組んできた。2025年はECサイトを立ち上げ、廃プラスチックをアップサイクルした製品の販売を開始し、初の注文も受けた。昨年はオープンファクトリーを2回、イベントにも15回出展して、デパートや子ども食堂などでも開催した。機械作りだけでなく、人々の環境意識を高める活動に手応えを感じている。社会性と経済合理性の両立に向けた種を、今年はしっかりと育て上げる」――技術開発で注力する成させたい。資源循環が



▲ 重要。質の高い再生材を供給できる体制を整え、国内の循環型社会への到達を後押しする

「世界全体が循環型社会に向かう中、東南アジアでも法律が急速に整備されている。2月にはタイで開催される廃棄物管理の展示会を視察し、現地のキーマンとの面談も予定している。JETRO O（日本貿易振興機構）の支援も活用しながら、スマートフォンで足掛かりを築きたい。グローバルな視点で資源循環の仕組みを広げていく方針だ」

企 業 デ ー タ

▷所在地=埼玉県川口市安行北谷665、048・298・7700  
 ▷資本金=8304万円▷従業員数=70人▷設立=1979年  
 (昭54) 5月▷URL=https://www.nihon-cim.co.  
 p/

日さく

社長  
若林直樹氏



「ヒト・ヒト・ヒト」で持続成長

事業内容は、  
「さく井工事、特殊土  
木工事、地質調査など」を  
手がけている。地下水や  
地盤に関する技術を強み  
とし、調査・計画から施  
工と維持管理までワンス  
トップで対応している」  
経営課題は、  
「建設業界全体で深刻  
化している人手不足だ。  
ベテラン層の世代交代が  
進む中、若手への技術継  
承を進めているが技術が  
継承する中間層の人材が  
不足している。どのよう  
に次世代へ技術を引き継  
いでいくかが課題だ」  
対応策は、  
「デジタル変革（D

X」を推進している。井戸のメンテナンスでは、水中テレビカメラで撮影した井戸内映像を活用し、従来は技術者が目視で判断していた異常の有無をAIが判定するシステムを開発。特許を取得した。DXは会社のためだけでなく、社員自身が「社員が若手に仕事の意

「楽になる」ための手段だと位置づけている」

人材育成で大切に行っていることは。

「仕事の面白さを感じてもらうことだ。自分の仕事が社会にどのよう役立っているのかを実感してもらうため、ベテラン社員が若手に仕事の意

義や働きがい・やりがい・生きがいを伝えるようにしている」

―災害用井戸（防災井戸）を手がけています

「災害時に生活インフラが被害を受け断水という状態になった際に、地域住民に生活用水として提供できる。災害時でも



「『今年、創業15年を迎える社員とその家族が幸福になる会社を』『働き方や職場のハラスメントを取り組んでいこう』」

「『今後の方針として、地域の方々などに導入を呼びかけている』」

「『健康経営については、2018年から健康経営優良法人の認定を継続しているが、今後は単に健康を守るだけでなくウェルビーイングの実現を目指す。社員が『この会社で働いて良かった』と思えることが最優先だ。社員満足があつてこそ顧客満足、地域への貢献につながる。人を基盤とした『ヒト・ヒト・ヒト』を経営を通じ、持続成長を図る』」

企業データ

▷所在地=埼玉県さいたま市大宮区桜木町4の199の3、048・644・3911▷資本金=1億円▷従業員数=294人  
▷創業=1912年(明45)▷URL=https://www.nissai-saku.co.jp

# 大森機械工業

社長  
大森利夫氏



# 包装工程全体コーディネート

「包装機械業界の市場見通しは、海外では米国の関税措置など先行きが読みづらい要因がある。ただ国内は人手不足を背景にして省人化ニーズが引き続き強い。包装機械業界全体としては堅調に推移するだろう。この追い風を受け、当社の2026年5月期の海外子会社を含む連結売上高は前期比約8・7%増の500億円を見込む」

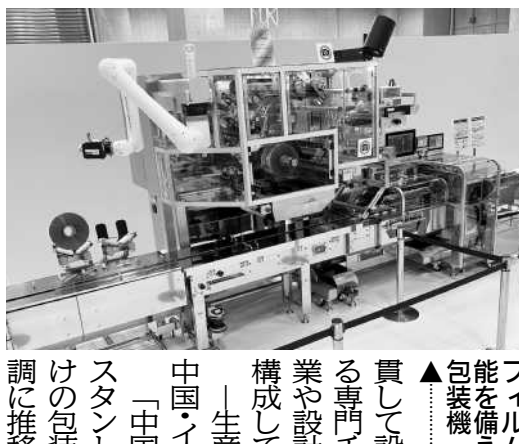
「今後の成長をけん引する分野は、単に包装機械を作れば良い時代は終わった。現在需要が高まっている

のは省人化を目的に、包装から検査、梱包、搬送までをワンストップで行うために必要な大型ライナーだ。これに対応し、例えば検査工程では検査機器メーカーの設備を組み合わせたリ、搬送工程では特殊なコンベアを製作してもらったりしながら、包装工程全体に組み込んでいく。包装の前工程まで含めてトータルでコーディネートする動きが主流になっている。

「足元で自動化ニーズが高いのは、包装材料を供給・セットする機能だ。包装材料がなくなるとライン全体が止まってしまう。そのためこうした部分の自動化要望が増えている。今後が関与するのは、トータル対応時のみという現場に近づくだろう」

——工程全体での提案活動が重要ですね。

「2025年に新たに『LDT（ライン・デザ



「設計・提案する  
チームで、営業  
計画など8人で  
いる」  
座席点を置く  
国では、イン  
ドラ・メン向  
袋の需要が堅  
薬品向けの引  
はっている。

中国国内の地場企業に着  
実力を付けてきていた  
ことが課題だ。地道に実  
績を積み重ね信頼を確保  
し、シェアをさらに伸ば  
したい」

「一方インドはクッキ  
ーやビスケット向けの需  
要が非常に高い。また中  
国と同様に医薬品向けの  
ニーズも堅調だ。特にイ  
ンドはジェネリック医薬  
品（後発薬）などの巨大  
市場を抱えており、今後  
の成長余地が大きい」

企業データ

▷所在地＝埼玉県越谷市西方2761、048・988・2111▷  
資本金＝2億3800万円▷従業員数＝660人▷設立＝19  
7年（昭32）12月▷URL＝<https://www.omori.co.jp/>



